

平成30年3月15日

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

第2回 官民合同会議

「災害初動期に都道府県が情報システムに求める機能とは？

～ 熊本地震、九州北部豪雨への対応を踏まえて ～」を開催

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：林春男）は、2018年4月19日（木）に第2回官民合同会議「災害初動期に都道府県が情報システムに求める機能とは？ ～ 熊本地震、九州北部豪雨への対応を踏まえて～」を開催します。

防災科学技術研究所では、実際の災害対応を行政機関と協働しながら、長年にわたり災害情報の共有・利活用について研究を進めて参りました。第2回官民合同会議では、平成28年（2016年）熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨での経験を踏まえ、災害初動期において、迅速かつ効果的な対応を実現するために、都道府県の立場から情報システムに求められる機能や、市町村との情報共有方法等について、議論を深めて参りたいと思います。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

シンポジウム Web ページ <https://risk.ecom-plat.jp/hp/180419sympo>

先着：120名（予定）

1. 主催：国立研究開発法人 防災科学技術研究所
2. 日時：平成30年4月19日（木）13:00～17:00（受付開始 12:30）
3. 場所：秋葉原コンベンションホール（JR 秋葉原駅・電気街口より徒歩1分）
4. 内容：別紙資料による。
5. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

第2回 官民合同会議

「災害初動期に都道府県が情報システムに求める機能とは？

～ 熊本地震、九州北部豪雨への対応を踏まえて ～」 を開催

1 官民合同会議の開催趣旨

国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）では、実際の災害対応を行政機関と協働しながら、長年にわたり災害情報の共有・利活用について研究を進めて参りました。第2回 官民合同会議では、平成28年（2016年）熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨での経験を踏まえ、災害初動期において、迅速かつ効果的な対応を実現するために、都道府県の立場から情報システムに求められる機能や、市町村との情報共有方法等について、議論を深めて参りたいと思います。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2 開催概要

名称	災害初動期に都道府県が情報システムに求める機能とは？ ～ 熊本地震、九州北部豪雨への対応を踏まえて ～	
主催	国立研究開発法人防災科学技術研究所	
日時	2018年4月19日(木) 13:00～17:00（受付開始 12:30）	
会場	秋葉原コンベンションホール（JR 秋葉原駅・電気街口より徒歩1分） 〒101-0021 東京都千代田区外神田1丁目18-13 秋葉原ダイビル	
参加費	無料	
対象	災害情報システムの導入をご検討の自治体（都道府県、市町村）の皆様 災害情報システムに関するビジネスを展開されている民間企業の皆様 災害時の情報共有・利活用にご関心のある皆様	
定員	先着120名 ※定員を超えた場合、資料を配布できない場合があります。	
プログラム (注)	13:00～13:10	開会挨拶
	13:10～14:30	第1部 災害情報共有の現状 ～ 熊本地震、九州北部豪雨の現場から ～ 特別ゲスト： 熊本県・危機管理防災企画監 有浦 隆 様 福岡県・防災危機管理専門監 木原 士郎 様
	14:30～15:00	第2部 都道府県の災害情報システムの整備現状 ～ 全国アンケートの結果より ～ (休 憩)
	15:20～16:50	第3部 官民合同会議 都道府県システムに求める機能
	16:50～17:00	総括 / 閉会挨拶

(注) プログラムは、都合により変更の可能性が有ります。予めご了承ください。

3 シンポジウム関連 Web サイト

参加申し込み及びお問い合わせは、下記のサイトにて受け付けております。

<https://risk.ecom-plat.jp/hp/180419sympo>

4 プログラム詳細

(1) 開会挨拶 (13:00～13:10)

防災科学技術研究所

レジリエント防災・減災研究推進センター センター長 藤原広行

(2) 第1部 災害対応の現状

～熊本地震、九州北部豪雨の現場から～

(13:10～14:30)

① 熊本地震、九州北部豪雨での防災科研の取り組み (20分)

防災科学技術研究所

社会防災システム研究部門 主幹研究員

花島誠人

防災科研は、平成28年熊本地震、および平成29年九州北部豪雨に対して、総合科学技術・イノベーション会議のSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)で研究開発を行っている府省庁連携防災情報共有システム(SIP4D)を適用し、発災直後から様々な災害情報を集約・提供する「防災科研クライシスレスポンスサイト(NIED-CRS)」を立ち上げるとともに、発災翌日には研究員を現地に派遣し、災害対応にあたる防災関係機関に対して、地図情報の提供を行う情報支援活動を実施しました。

本合同会議の前提として、こうした防災科研の取り組みをご紹介します。

② 実際に災害対応を経験して (60分)

【特別ゲスト】

熊本県 危機管理防災企画監

有浦 隆

福岡県 防災危機管理専門監

木原士郎

平成28年熊本地震、平成29年九州北部豪雨の対応において、最前線で指揮をとられた熊本県・有浦 危機管理防災企画監、福岡県・木原 防災危機管理専門監より、実際の災害対応を踏まえ、情報共有の実態、課題、今後の期待等についてご講演いただきます。

(3) 第2部 都道府県の災害情報システムの整備現状

～ 全国アンケートの結果より ～

(14:30～15:00)

防災科学技術研究所

社会防災システム研究部門 主幹研究員

伊勢 正

これまで、災害情報システムは、全国的に都道府県の主導で整備され、市町村が都道府県の要請に基づき情報を入力するという形で整備が進んでいます。こうした災害情報システムの現状について、防災科研が実施したアンケート調査等を元に、その事態を整理、分析し、災害情報システムの課題について言及します。

(4) 第3部 官民合同会議 都道府県システムに求める機能 (15:20～16:50)

第1部、第2部の講演を踏まえ、災害情報を利活用するための災害情報システムの課題、求められる機能、そして今後の展望について、都道府県、民間企業から有識者をお迎えし、議論を深めたいと思います。

●パネリスト：

福岡県 防災危機管理専門監

木原士郎

熊本県 危機管理防災企画監

有浦 隆

高知県 危機管理・防災課 課長

江渕 誠

株式会社 日立製作所 ディフェンシブ・ソリューション

松井 隆

日本電気株式会社 スマートインフラ事業部 シニアエキスパート

平井清宗

日本工営株式会社 統合情報技術部 次長

反町 容

●コーディネーター：

防災科学技術研究所

社会防災システム研究部門 主幹研究員

伊勢 正

(5) 総括 (16:50～16:55)

防災科学技術研究所

総合防災情報センター センター長

臼田裕一郎

今回の合同会議を振り返り、議論の成果をとりまとめます。

また、SIP4D や防災情報サービスプラットフォーム等、この会議に関連したテーマに関する防災科研の今後の取り組みについて、ご紹介いたします。

(6) 閉会挨拶 (16:55～17:00)

防災科学技術研究所 理事長

林 春男

【会場案内】秋葉原コンベンションホール

(秋葉原コンベンションホール <http://www.akibahall.jp/>)

JR 秋葉原駅 (電気街口) 徒歩1分

東京メトロ銀座線 末広町駅 (1番出口) 徒歩3分

東京メトロ日比谷線 秋葉原駅 (3番出口) 徒歩4分

つくばエクスプレス 秋葉原駅 (A1出口) 徒歩3分